東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

ジャカルタ日本人学校における進路指導

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木,究 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173676

ジャカルタ日本人学校における進路指導

前在インドネシア日本国大使館付属ジャカルタ日本人学校中学部教諭
東京都八丈島八丈町立大賀郷中学校主任教諭　佐々木　究

キーワード：在外教育施設、大規模校、中学部、進路指導、上級学校

1　はじめに

私は平成29年（2017年）4月より令和2年（2020年）3月まで文部科学省派遣教員として、ジャカルタ日本人学校（Jakarta Japanese School 以下、JJS）へ赴任した。任期中には中学部3年学級担任、中学部教務主任として、JJS を卒業する中学部の生徒の進路指導に関わってきた。在外教育施設中学部を卒業する生徒の進学先は実に多様であり、国内とは違う面が多く、都道府県によって入学者選抜のしくみも異なることから、慎重かつ正確に事務を進めていく必要がある。非常に責任が重く、膨大な書類作成に追われる職務であるが、JJS 内でも中学部3年所属の職員以外にはその困難さについて共有することが難しかった。また、同じ日本人学校でも中学3年生が数名の小規模校と数十名以上の大規模校では事情が異なってくる。在外教育施設における進路指導は経験したものでなければ分からない内容である。在外教育施設特有の事情について、御理解いただければ幸いである。

2　JJS の概要

平成29年（2017年）4月の全校児童生徒数は1125名（小学部887名、中学部238 名）。小学部は各学年4～5学級、中学部は各学年3学級で編制されていた。私が赴任していた3年間の中学部生徒数は中学部では1学年100名前後、2学年80名前後、3学年60名前後で推移していた。3学年は40名の学級編制基準に照らすと2学級編制となるところであるが、進路指導を考慮し、3 学級編制としていた。日本人教師は文部科学省派遣教員と学校採用教員合わせて約60名であった。

3　JJS 卒業生の進路

小学部卒業生の多くは中学部へと進学する。日本へ本帰国する卒業生の大半は居住地の公立中学校へと進学するが、私立中学校へ進学する卒業生もいる。中学部卒業生の多くは本帰国後の居住地から通える高等学校へ進学するが、他にも多くの進学先がある。家族と離れて日本国内の全寮制高校、インドネシア国外の私立の在外教育施設やインターナショナルスクール、インドネシア国内のインターナショナルスクールや現地校と進路先は千差万別である。当然、入学に向けて必要な手続きや書類だけでなく、入学試験の時期までもが各種各様である。私は中3担任として約20名の生徒に対し、約80校分の公印が必要な書類を作成した。1つの学校で調査書、入学願書、推薦書、委任状、海外在留証明書など複数の書類に公印を押すことが必要な場合もあり、和文だけでなく英文の様式もあった。9月初頭から海外入試の書類作成依頼が入り、3月の公立高校の合格発表まで進路事務が続くこととなる。担任が作成した調査書は学年主任と副担任によるチェックを通り、中学部教頭と中学部教務主任の最終チェックを経て、公印を押される。記述方法に疑義があれば、入試要項や調査書記載要領を確認し、内容によっては高校側に電話連絡を入れ、正確な記述に努めた。1年目は中3担任として調査書作成に当たり、2年目以降は教務主任として調査書の確認作業に当たった。JJS では進路指導の経験が蓄積されていたが、常に細心の注意を払って進路事務に向き合い、改善を重ねる日々だった。その結果か、ジャカルタ日本人学校で進路指導を受けるため、市内のインターナショナルスクールから中3の時期に編入してくる生徒もいた。

4　JJS 中学部 3 年生の一年間

1 学期―中 2 の頃に比べて、人数が少なくなった新しい学級での生活が始まる。入試に備えて中 2 修了時に本帰国する家庭も多い。入学時点で 1 学期での本帰国が決まっている生徒もいるが、ほとんどは JJS を卒業することを見越している生徒である。4 月の学校公開時に中 3 生と保護者対象に第 1 回進路説明会が行われる。進路情報を家庭主体で情報収集するよう伝える。5 月には全校に合わせて第 1 回個別面談を実施する。まだ、多くの生徒は志望校が固まっていない。進学希望先は日本か海外か、日本であればどの都道府県に帰国するのか、公立高校を受検の予定があるかなど確認していく。それぞれの志望先に合わせて、必要となりそうな手続きについて伝えていく。1 学期には国内外から海外帰国生入試を実施する高校を中心に JJS を会場に学校説明会を開催する。JJS では、日程の都合がつけば、学校説明会の会場を提供していた。小学校高学年から中学校 3 年生まで多くの生徒や保護者の参加者があった。

2 学期―夏休み明けすぐに第 2 回進路説明会が行われる。入試関係書類作成依頼の具体的な流れについて説明をする。説明会後すぐ、中 3 のみ第 2 回個別面談を行い、入学志望校について確認していく。これ以降、海外入試の調査書作成依頼が始まる。10 月末にはインドネシアや近隣アジア諸国を会場とした海外入試が実施され、卒業後の進路が確定する生徒も出てくる。11 月下旬には 3 回目の個別面談を実施する。12 月には首都圏の私立高校と入試相談がある。12 月の終業式後、入試関係で一時帰国し、進路決定までジャカルタに戻らない生徒が多数いる。そのため、JJS では中学校の学習内容はすべての教科で 2 学期中に終えるようカリキュラムを組んでいる。

3 学期―多くの生徒が一時帰国中であり、登校する生徒はすでに進路決定した生徒と公立高校学力検査の直前まで JJS で学習する生徒となる。復習演習問題や発展学習を中心に授業を進めていく。2 月末から進学先が決定した生徒がジャカルタに戻り始め、3 月上旬には卒業式を迎える。卒業式後に公立高校の結果が出る生徒もいる。

5　上級学校の状況

⑴ 公立高校

東京都では公立高校出願は受検者本人が行い、2 月末に学力検査があり、3 月上旬には合格発表がある。都道府県によっては中学校を通しての出願が求められることや学力検査が 3 月中旬に行われることを知った。また、多くの都道府県で海外を含めた県外からの受検には受検資格確認をしている。居住証明として登記事項証明書や賃貸契約書の写しを求める自治体もあった。都道府県によって入学者選抜の方法は様々であり、時期も異なる。近年は、公立高校でも帰国生対象の入学者選抜を実施する学校が増えている。そのため、11 月頃までに発表される公立高等学校入学者選抜実施要項を詳細に確認し、疑問点があれば、各教育委員会へ確認をする必要がある。3 学年担任で各自治体を分担し、確認作業を行うこととなる。中学校による出願が必要とされている自治体でも、JJS からの委任状で保護者が代理で手続きができる学校もあれば、あくまでも JJS から出願手続きをする必要がある学校もあった。海外である事情や郵便事情を説明しても、なかなか理解してもらえないこともあった。公立高校には、国立大学付属高校を含めることができるが進路指導については私立高校と近いものがあった。

⑵ 私立高校

推薦入試や一般入試、海外入試、帰国生入試と各種各様の入試制度がある。早くは 10 月末から 11 月末に海外入試が始まる。1 月には帰国生入試や推薦入試が始まり、2 月上旬には首都圏の私立高校一般入試が始まっていく。近年はほとんどの学校で入試要項や出願書類がホームページで公開されることが

増えた。また、海外入試実施校では WEB 出願や受験料のクレジットカード決済を導入する学校もあり、郵便事情や送金方法に悩むことも少なくなった。しかし、一部の私立高校では学校窓口で出願書類を直接購入する必要があり、保護者が一時帰国したり、日本にいる親類や日本へ出張する会社の同僚に依頼したりと苦労していた。

⑶ 私立在外教育施設

文部科学省の認定を受けた私立在外教育施設高等部の１つに早稲田渋谷シンガポール校がある。アジアの日本人学校で義務教育を終えた生徒の受け入れ先として在外邦人の強いニーズに応えて設立された。入学資格は保護者が海外在住であることが必須となる。JJS から進学した生徒は入寮して学校生活を送ることになる。保護者が引き続きインドネシアで勤務する家庭や次の赴任先も日本以外の国になる家庭の場合、日本ではなく、海外の在外教育施設に進路選択する生徒がいた。将来は日本で大学進学を想定している生徒が多かった。

⑷ インターナショナルスクール

高等教育を日本ではなく、世界中を拠点に学んでいこうと考える生徒はインドネシア内外のインターナショナルスクールに進学した。入学時期が日本と異なるため、日本の中学校卒業資格を得るかどうかで進学のタイミングを迷う家庭が多かった。JJS を卒業した後、9 月の入学まで待つ生徒がいれば、JJS の卒業を待たず、中３の１学期で JJS を去り、インターナショナルスクールに進学する生徒もいた。

⑸ 現地校

高等教育を終えた後も、インドネシアを拠点として生活していくことを想定している生徒には現地の高校へ進学する生徒がいた。国立や私立、イスラムスクールなど様々な学校があるようだが、学校としての情報収集は困難が多かった。たいていは保護者が現地事情に詳しく、学校としては作成依頼があった英文の必要書類を作成する程度の進路指導であった。

6　おわりに

私が帰任した令和２年（2020 年）３月以降、新型コロナウイルスの影響により、世界中で移動制限や対面授業制限がかかり、オンライン授業が通常の姿となりつつある。国を越えた移動がままならない中、海外での学校説明会や海外入試も形を変えていくことになると思われるが、生徒の進路実現を支援する教師の姿に変わりはない。在外教育施設の教師は目の前の状況に合わせて臨機応変に対応していく力が求められる。

JJS に着任するにあたり、様々な御縁があった。私と同じ東京都八丈島出身で現在は八丈町立中学校の校長を務めている方は平成 15 年（2003 年）度から JJS に派遣されていた。私が中学生時代に八丈島内の中学校で勤務し、私の初任校の校長であった方は平成元年（1989 年）度から JJS に派遣されていた。数えればきりがないが、私はジャカルタに赴任するべくして赴任したのだと振り返ることができる。1 年目は中 3 の学級担任として、2 年目からは中学部教務主任として、貴重な経験を積ませていただいた。恵まれた上司と同僚、職場環境で JJS の歴史の一部として少しは責任を果たせたのではないかと考えている。ジャカルタ日本人学校での勤務を終えた私は、ふたたび故郷である東京都八丈島での教師生活を始めている。今後は八丈島の教育に資するとともに、グローバル人材育成に励んでいきたい。